

# 横浜

## 若者の失業、ひきこもり

# 相談24時間OKに

### 磯子の支援団体 住居の一時提供も開始

失業やひきこもりなどに悩む三十代までの若者の相談に乗ろうと、横浜市磯子区の支援団体「K2インターナショナルジャパン」が二十一日、二十四時間(日祝日除く)の相談窓口と、一時的に住居を提供するシェルターを開設した。国からの補助を受けた事業で、全国で初めての試み。同団体の担当者は「気軽に相談に来てほしい」と呼び掛けている。

(荒井六貴)

同団体は、ひきこもりなどしてきた。相談は、昼間の時間自立支援の合宿や、就労一帯だけだったが、今援助のための飲食店一回、日祝日を除く二十「にこまる食堂」(同四時間体制とした。窓区東町九)を経営する。口は、同食堂に設置した。シェルターは、失業して住居を失ったりした若者の一時的な避難所として、同食堂近くのマンション二室を借りた。男女各四人の計八人が住むことができる。居住期限は、設定しない。

来年三月までの事業で、国からの補助金は約九千万円。相談員の人件費や家賃などに充てられる。

同団体の調理スタッフフ堀美形彦さん(三〇)は約十年間ひきこもっていたが、昨年相談に訪れ、働くようになった。「(行政などの)表だった相談は荷が重いが、ここにきて救わ

た」と語った。

同団体のキャリアカウンセラー岩本真実さん(四〇)は「これが、一つのモデルになってくれれば。困っている若者が多いことを知ってほしい」と訴えた。

若者支援をテーマに、同食堂が入るビル四階研修室で三月五日午後二時から、精神科医名越康文さんによる講演会も開く。入場無料。定員は百五十人で、事前申し込みが必要。問い合わせは、同団体〓電045(750)0039へ。



夜間の相談窓口になる「にこまる食堂」(磯子区)